

2 指導案例

<指導案②>

(1)単元 安全で快適な住まいづくり (本時5/10)

(2)本時の目標

- ・安全な住まいや住まい方について、関心をもつことができる。 【関心・意欲・態度】
- ・高齢者疑似体験をもとに、住まいを改善したり住まい方を工夫したりすることができる。

【工夫・創造】

(3)本時の評価規準

- ・安全な住まいや住まい方に関心をもち、自分の生活に取り入れようとしている。
- ・高齢者の安全性に着目し、住まいの問題点を見出し、改善方法を考えることができる。

(4)準備・資料

ホワイトボード、ホワイトボードマーカー、間取り図、写真、ワークシート

(5)指導過程

[支] 支援, ・留意点 (評) 評価

区分	学 習 活 動	支援・留意点・評価
導入 5分	1 前回の授業の内容を振り返り、高齢者の身体的特徴を確認する。  安全な住まいの工夫を考えよう	・高齢者疑似体験の写真を見せながら、振り返る。
広げる 15分	2 高齢者が生活する住まいについて考える。 (1)高齢者の住まいについて安全性に着目し、問題点と改善案をグループで考える。  (2)気付いた問題点について改善方法を話し合い、発表する。	・グループごとに異なる課題を考えさせる。 ・間取り図や住まいの様子を撮影した写真を見ながら問題点を考え、ホワイトボードに記入する。 [支] 話し合いが進まないグループは、写真の問題点を示して考えやすいように助言する。 ・問題点を記入したホワイトボードを空間ごとに整理して貼る。 ・さまざまな空間で共通して挙がると予測される段差に着目して、更に深めて話し合うよう提案をする。
深める 20分	(3)段差の改善案について話し合う。 ①段差の事故が多いことを知る。  ②段差の改善案を話し合う。  3 自宅の問題点と改善案を考える。	・家庭内事故の内訳グラフを示し、高齢者の段差による事故が多いことを知らせ、改善の必要性を理解させる。 ・家庭でも実践できそうな改善案をグループで話し合い、発表する。 ・実現不可能な改善案について、生徒に投げかけ、話し合わせる。 ・バリアフリーやユニバーサルデザインなどについて説明する。 ・祖父母と一緒に生活していない生徒については、生徒の自宅に生徒の祖父母が訪ねてきたことを想定して考えさせるようにする。 (評) 高齢者の安全性に着目し、住まいの問題点を見だし、改善方法を考えることができる。 (ワークシート④) 【工】
まとめ 10分	4 家庭内事故を防ぐために大切なことについて自分の意見をまとめる。	・高齢者疑似体験や幼児がいる住まいで考えた時のことも含めて記述させるようにする。 (評) 安全な住まいや住まい方に関心をもち、自分の生活に取り入れようとしている。 (ワークシート⑤) 【関】